

交通安全教育 シミュレーター

TRAFFIC SAFETY EDUCATION SIMULATOR



歩行者シミュレーター



自転車シミュレーター

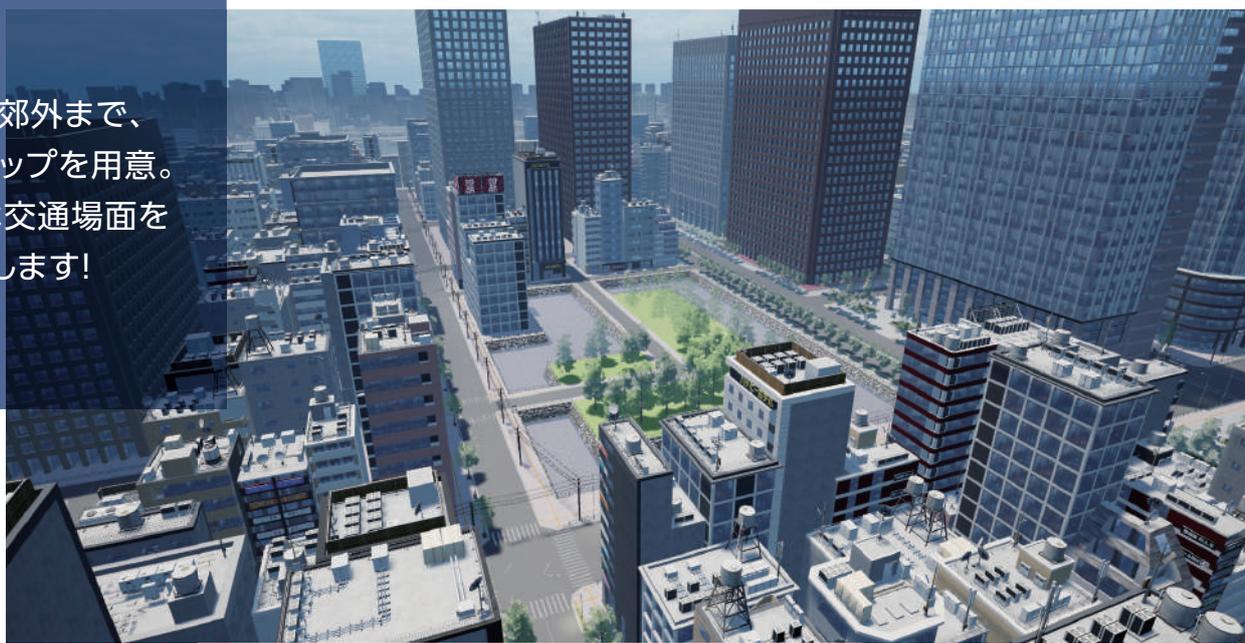


自動車シミュレーター



交通安全教育シミュレーターは、仮想現実 (VR) の世界に再現されたリアルな街を通行して、危険予測と安全確認の重要性を体験できる学習システムです。さまざまな交通場面を体験することによって、正しい交通ルールを学習し、危険を予測する能力を高めることができます。

都市から郊外まで、
充実したマップを用意。
さまざまな交通場面を
再現します！

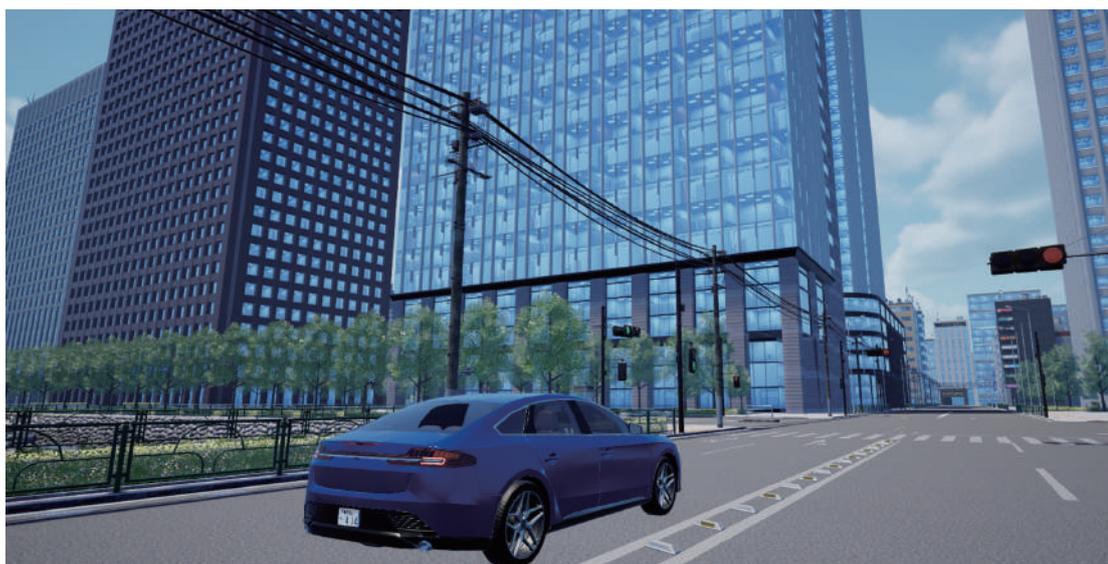




高品質な映像で
リアルな体験が可能！

世界的なゲームエンジンの Unreal Engineを使用！

世界でもっとも使用されている3Dゲームエンジン「Unreal Engine」を採用。高品質な映像と直感的な操作性を実現したことで、これまで以上に効果的な交通安全教育が可能になりました。



コンパクトに収納して、
持ち運び可能！

3種類のシミュレータを ひとつのソフトで体験できる！

「歩行者」「自転車」「自動車」をひとつのソフトに集約しました。コントローラーを入れ替えるだけで手軽に体験が可能です。

歩行者



自転車



自動車



※二輪車、電動キックボードも対応予定！

本格的なシミュレータでありながら、機材は専用ケースにコンパクトに収納可能。可搬性に優れ、設置・撤去も簡単です。扱いやすさにもこだわりました。

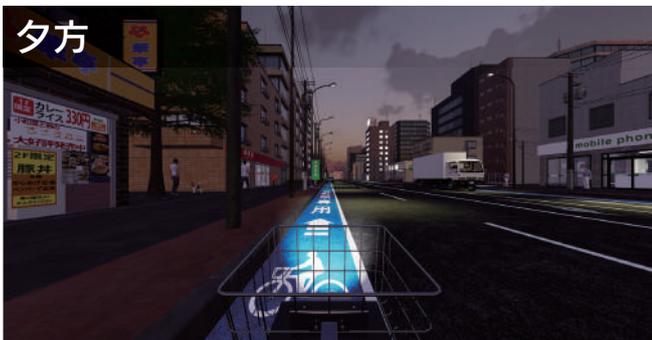
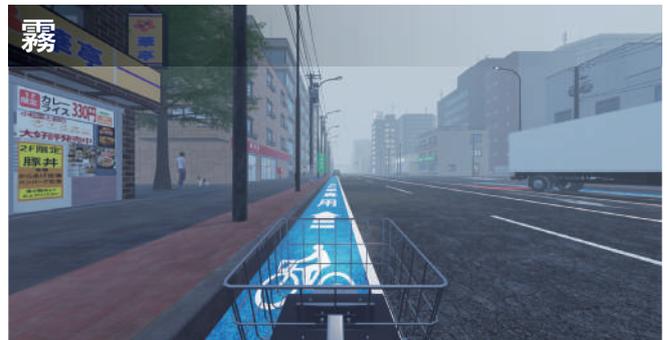
→ [機材リストはP9を参照](#)



豊富な設定機能

●天候・時間帯の変更

天候や時間帯を自由に設定できます。視認性の変化を想定した体験が可能です。



●体験中の視点変更

体験中の視点を「自分視点」「三人称視点」「俯瞰視点」に切り替えることができます。



●リプレイ機能

体験後に、自分の行動をリプレイで確かめることができます。自分、三人称、俯瞰の3つの視点で振り返ることで、自分の行動の振り返りと危険ポイントの再確認ができます。



●結果表示・印刷

体験した内容を「A」～「E」の5段階で評価するとともに、問題行動となった場面を俯瞰画像で表示します。診断結果のプリントアウトも可能です。



●テロップ機能

音声だけでなく、画面上にも文字で案内を表示することができます。体験者に必要な行動を、音声と文字でわかりやすくサポートします。



体験の流れ

1 スタート画面

「体験を選択する」をクリックします。

2 モード選択

実施内容に合わせてモードを選択します。

教室モード

体験したいコースを任意に選べます。
学校等での交通安全教室に適しています。

イベントモード

複数のコースを連続体験できます。
イベントなどでの活用に適しています。

3 体験内容の設定

天候や時間帯など、各コースの詳細を設定します。

4 体験開始！

「歩行者」「自転車」「自動車」ごとのコントローラ等を使用して体験を始めます。



歩行者シミュレータ



3画面モニター

画面の前で「足踏み」「腕振り」をすることで仮想現実の街なかを歩くことができます。

コンパクトなシステム機器

正面に設置されたカメラ（モーションセンサー）が体験者を自動で認識します。体験者が「足踏み」や「腕を振り」動作をすることで、仮想現実の街を歩くことができます。街の中には、現実の世界と同様に、さまざまな危険が潜んでおり、リアルな体験を通して安全意識を高めることができます。

歩行者シミュレータのコース例

信号機のある横断歩道の横断



信号機のない横断歩道の横断



見通しの悪い交差点の通行



歩道通行



自転車シミュレータ



実際の自転車をシステムに接続、現実に近い操作感で体験できます。

体験用自転車
(センサー付き)

後方確認用モニター

実際の自転車にセンサーを装着し、コントローラーとして使用するシステムです。ペダルをこぐと、3D映像で再現された街なかを走行することができ、リアルな運転体験が可能です。走行中には、典型的な自転車事故が発生するさまざまな交通場面を再現。出現する歩行者、自転車、自動車などリアルな挙動を通して安全運転の重要性を学ぶことができます。

自転車シミュレータのコース例

見通しの悪い交差点の通行



信号機のある交差点の通行



駐停車車両の側方通行



歩道通行



自動車シミュレータ

3画面モニター

可搬型のハンドル・ペダルを接続し、現実に近い運転体験が可能です。

ハンドル、ペダルで操作

ドライビングシートも選択可(有料)

実車のハンドルやペダルを模した専用コントローラーを使用することで、本物の車を運転しているかのようなリアルな操縦体験を実現。高い臨場感が得られ、優れた学習効果が期待できます。また、座席部分にはドライビングシートを採用することも可能です。

自動車シミュレータのコース例

見通しの悪い交差点の通行



信号機のある交差点の右折



駐停車車両の側方通行

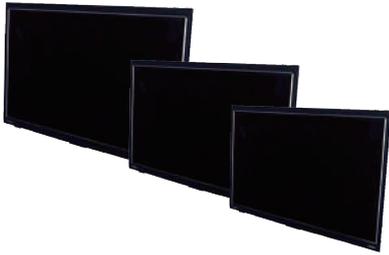


右折入庫



機材リスト

共通 システム構成



モニター3台
(32~40インチ)



後方確認用モニター
(24インチ)



設置スタンド・収納ケース



本体システムPC



テンキー



付属キャビネット

+ 歩行者編



センサーカメラ

+ 自転車編



センサー付き自転車

+ 自動車編



可搬型ハンドル・ペダル

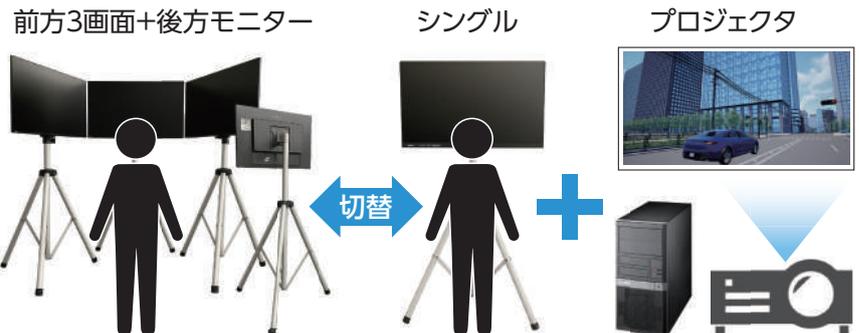
+ オプション



VRゴーグル

モバイルプリンター

設置スペースに合わせた出力方法を選ぶこともできます。



※本カタログに掲載されている機材の外観・仕様等は予告なく変更することがあります。

交通安全教室・イベントなどで幅広く活用されています!

交通安全教育シミュレータは、子どもや高齢者を対象にした交通安全教室での活用をはじめとして、ショッピングモールやイベント会場における交通安全普及啓発、企業の従業員研修などに幅広く活用されています。高品質かつリアルな体験を提供する当シミュレータは、学習者の興味・関心を高め、効果的な教育が期待できます。また、当協会が長年にわたり培ってきたノウハウに基づく指導カリキュラムも、高い評価をいただいております。

児童・生徒に対するシミュレータの実施例



カリキュラム例

小学生
を対象にした
活用事例

時間

45
分

ねらい

- 歩行中や自転車運転中の交通事故防止を目的として、安全な通行方法をシミュレータで学習する
- 危険予測や安全確認の重要性を認識し、日頃の交通行動で実践できるようにする など

① 導入

2
分

ねらいや手順を具体的にわかりやすく説明

② 学習

8
分

交通ルールの必要性をスライドやクイズを用いて解説

③ 体験

25
分

シミュレータを体験し、危険感受性を高める

④ まとめ

10
分

事故発生時の対応や責任を学習。事故を起こさないための危険予測・安全確認の重要性を確認

高齢者に対する実施例

自動車シミュレータ



自転車シミュレータ



研修・イベントにおける実施例

研修



イベント



カリキュラム例

高齢者を対象にした活用事例

時間

60分

ねらい

- 歩行中の交通事故防止を目的として、道路歩行の危険性をシミュレータで体験する
- 体力測定やゲーム等を通して加齢に伴う身体機能や認知・判断力の変化を自覚する など

① 導入

1分

ねらいや手順を具体的にわかりやすく説明

② 学習

14分

簡単なゲームで、加齢に伴う能力の低下が及ぼす影響を解説

③ 体験

40分

シミュレータの体験を通して、危険感受性を高める／開眼片足立ち・反応力ゲームを実施、自分自身の今の状態を自覚

④ まとめ

5分

歩行中の危険予測の重要性や加齢に伴う身体機能の変化について確認

- ◆交通安全イベント等へのレンタル・出展も対応可能です。
- ◆デモのご要望につきましても、ご相談ください。
- ◆交通安全学習館等への常設等、カスタマイズにも対応可能です。
- ◆「交通安全体験車」の既存機器からの載せ替えにも対応可能です。(要相談)
- ◆その他、指導・活用方法等につきましても、お気軽にご連絡ください。

【Unreal Engine採用】
「交通安全教育シミュレータ」



お問い合わせ

一般財団法人 日本交通安全教育普及協会
普及事業部「交通安全教育シミュレータ」担当

〒101-0031
東京都千代田区東神田1-9-8 THE WAVES AKIHABARA 7F
<https://www.jatras.or.jp/>
TEL 03-5835-3071 FAX 03-5835-3072